

長野県農業士協会「東信ブロック研修会」を開催しました

9月2日に、農業士上小支部主催で「令和2年度 長野県農業士協会東信ブロック研修会」を上田市殿城の現地ほ場で開催しました。当日は農業士4名、関係者合わせて約20名が参加しました。

研修会では、現在注目されている「スマート農業」について、ICTの分野から無人ロボットによる農業機械の開発を研究している株式会社イーエムアイラボ（本社：富士見町）の担当者を招き、実際に開発された農業機械の実演を行いました。

実演したのは、果樹用に開発された農薬散布機と草刈機の2種類。

農薬散布機は、SSのようにはいかないものの、参加した農業士会員からは「リンゴのわい化栽培やブドウの短梢栽培のような畑の散布なら使える可能性がある」と好評でした。

草刈機については、乗用草刈機にも見劣りしないスピードで刈りとることができ、「これが自動で動いてくれたらベスト！」と、これも大変好評でした。

実演会の後は、農家の立場から、メーカーの立場から、行政の立場から、それぞれに「スマート農業」をテーマにフリートークで意見交換をしました。

農家の立場として農業士の会員からは、「農作業が少しでも『ラク』になる機械を開発してほしい。今回実演した散布機や草刈機のほかに、ぶどうの摘粒を見極める機能も是非検討してほしい」との意見がありました。これを受けてイーエムアイラボの担当者からは、「自分も農家の出身なので農作業の大変さはよくわかる。農業士には今後もアドバイスをもらいたい」とのことでした。

また行政の立場で、東信の10市町村が連携し、地域の産業創出や発展を目的に組織されている「東信州次世代産業振興協議会」事務局の上田市役所商工課の担当者から、「農業分野について、当協議会ではスマート農業のような、新たな農業分野の産業創出について推進を図りたい」と、産業振興の面でもスマート農業が注目されているとのことでした。

今回の研修会は、農家側の要望を伝えることができ、また、メーカー側も農家のニーズを把握することができて、大変有意義な研修会でした。

農業士協会上小支部では、今後も「互いの目的達成のためにできることを検討しよう」ということで、連携していく予定です。

